

株式会社マイオリッジ

研究開発部門での外部人材を有効活用

財務・事業計画策定などの経営ノウハウを外部リソースから補完

事業内容

iPS細胞研究の実用化が目的 iPS細胞由来の心筋細胞の製造

現代表である牧田氏が京都大学在学中にiPS細胞の研究支援を行ったことをきっかけに、2016年(平成28年)に技術顧問である南氏と末田氏(京都大学iPS細胞研究所)と共に、iPS細胞研究の実用化を目的として同社を創業した。

従来、抗がん剤などの新薬(医薬品)の心臓への副作用を評価する場合、動物実験も含めると多くの時間とコストがかかるという問題があった。同社が製造するiPS細胞由来心筋細胞は、培養にタンパク質を使用しないため製造コストが低く、ロット間均一性に優れ、かつヒトの成熟心筋細胞に近い性質を持つことが確認されているため、新薬開発への貢献が期待される。また、iPS細胞の臓器化を目指す研究にも利用することができる。販売先は、大学

研究室、国内外の製薬会社や研究機関などに販路を広げている状況にある。

京都大学とのライセンス契約、ベンチャーキャピタルからの資金調達を経て、事業を軌道に乗せつつある。



代表取締役 最高経営責任者(CEO) 牧田 直大氏

外部人材活用・人材投資に注力した背景

外部人材(研究開発部門)の存在と資金調達の成功が事業を前に進める 財務・事業計画策定などの経営ノウハウを外部リソースから補完

iPS細胞の研究を世の中の役に立てて欲しいという声は大きく、iPS細胞由来の心筋細胞は国内外の大学や研究機関から相応の需要があることも想定できていた。しかしながら、どのような手段で事業化していけば良いか、安定した供給体制を構築するために人や資金がどの程度必要なのか、研究開発経験や財務知識が十分でなかったため、リアルなビジネスとして事業計画を具体的に描いていくことに苦労していた。

特に資金調達は、これまで経験がなかったために苦労した。日本政策金融公庫の制度融資を利用するための事業計画を銀行のサポートも受けながら作成し、事業計画策定ノウハウを経営者として学び習得していった。銀行だけでなく、さらにベンチャーキャピタルからの投資を得ようとすると、5年後の計画だけでなく10年後のより大きな事業計

画も必要となる。経営全般のアドバイスも含め、投資育成事業を手掛ける企業からのアドバイスも受け、事業計画を構築していった。事業化に向けては、京都大学とのライセンス契約の調整にも多くの時間を要した。ライセンスが京都大学にあるなら、取引が難しいという意向の企業も少なくなく、なかなか思うように事業化ができないとすることもあった。

人材に関しても、投資育成事業を手掛ける企業から人材の紹介を受けるなど、外部企業の力を借りる機会があった。そのほか、信州大学との共同研究を進める部分もあり、人材や研究面では、外部資源を活用できるだけ上手く活用し事業を前に進めている。

株式会社マイオリッジ

〒606-8501 京都府京都市左京区吉田下阿達町46-29
京都大学 医薬系総合研究棟305号室
TEL: 075-746-7804 FAX: 075-746-7804
<http://myoridge.co.jp>

(代表者名) 牧田 直大
(創業年月) 平成28年8月
(資本金) 65,300千円
(従業員) 14人(アルバイトを含む)
(業種) 心筋細胞の培養・供給

外部人材活用の成果と今後の展開

外部資源を活用し、資金面の課題を解決 業績だけでなく人材面の充実を図る

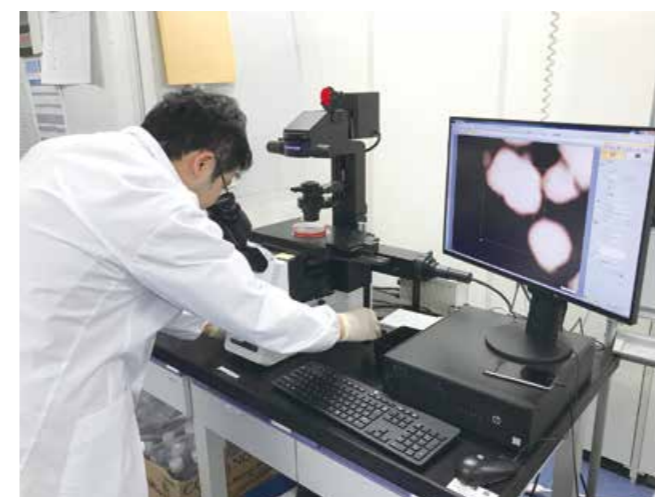
事業運営の面では、投資育成事業を手掛ける企業に加え、金融機関や京都市のサポートもあり、内部では解決できない問題を解決し、事業を前に進めることができた。資金調達の面でも、それら企業や機関のアドバイスを有機的に結びつけることで多額の資金調達を行うことができた。

業績に直結してくるのは今期以降になるものの、資金調達を進められたことで、生産と技術(研究)開発の人員を雇用することができており、iPS細胞由来の心筋細胞を安定的に供給できる体制も整いつつある。

人材面に関しては、VCから人材の紹介を得られるように依頼しているほか、独自の人脉を使って同社の技術と関連する専門的な知識を有する人材との接触を図っている。期中には、技術・生産に関わる人材を数名程度採用する計画となっており、生産体制の強化と再生医療など新分野の研究開発を行える人材が入社する予定となっている。若い人材が同社の原動力となることも期待される。

2021年7月のIPO(株式公開)を目指し、事業を展開している同社であるが、組織体制の整備も近いうちに進めていきたいと考えている。特に、財務を専門とするCFOがいないため、外部から獲得することも視野に入れている。また、生産・技術ともに従業員数も増えつつあるため、部門を統括できる人材の採用・育成も進めていきたいとしている。

現在、投資が先行している状況にあるが、国内外の大学や研究機関などから引き合いも得られつつある状況にある。評判も少しずつ広まっており、同社への追い風も吹いている。外部資源も巧く活用しながら、これからは今までの投資に対する刈り取りもすすめていく。



心筋観察風景



心筋培養風景